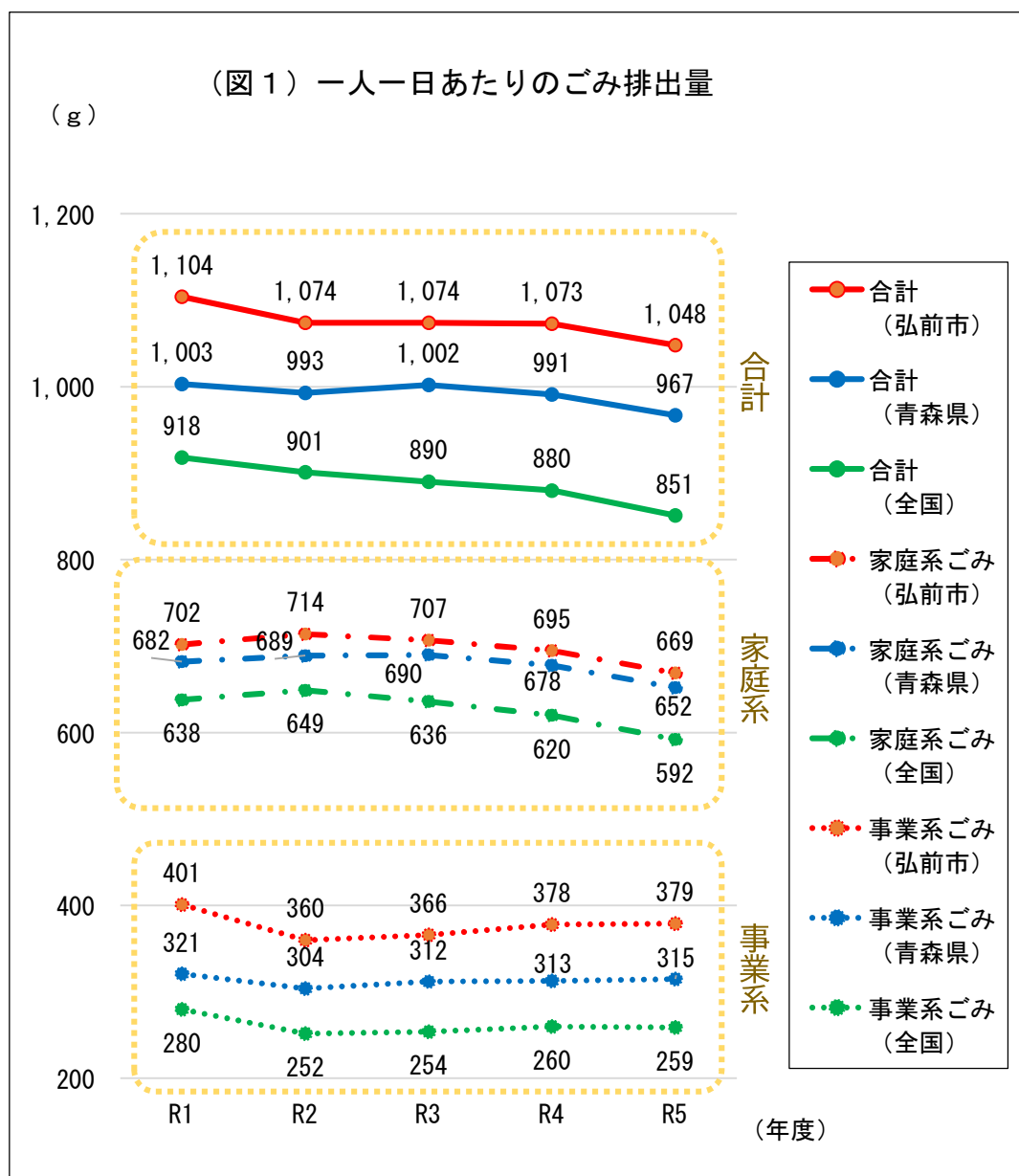


ごみ処理の状況について

1 市民 1 人 1 日当たりごみ排出量について

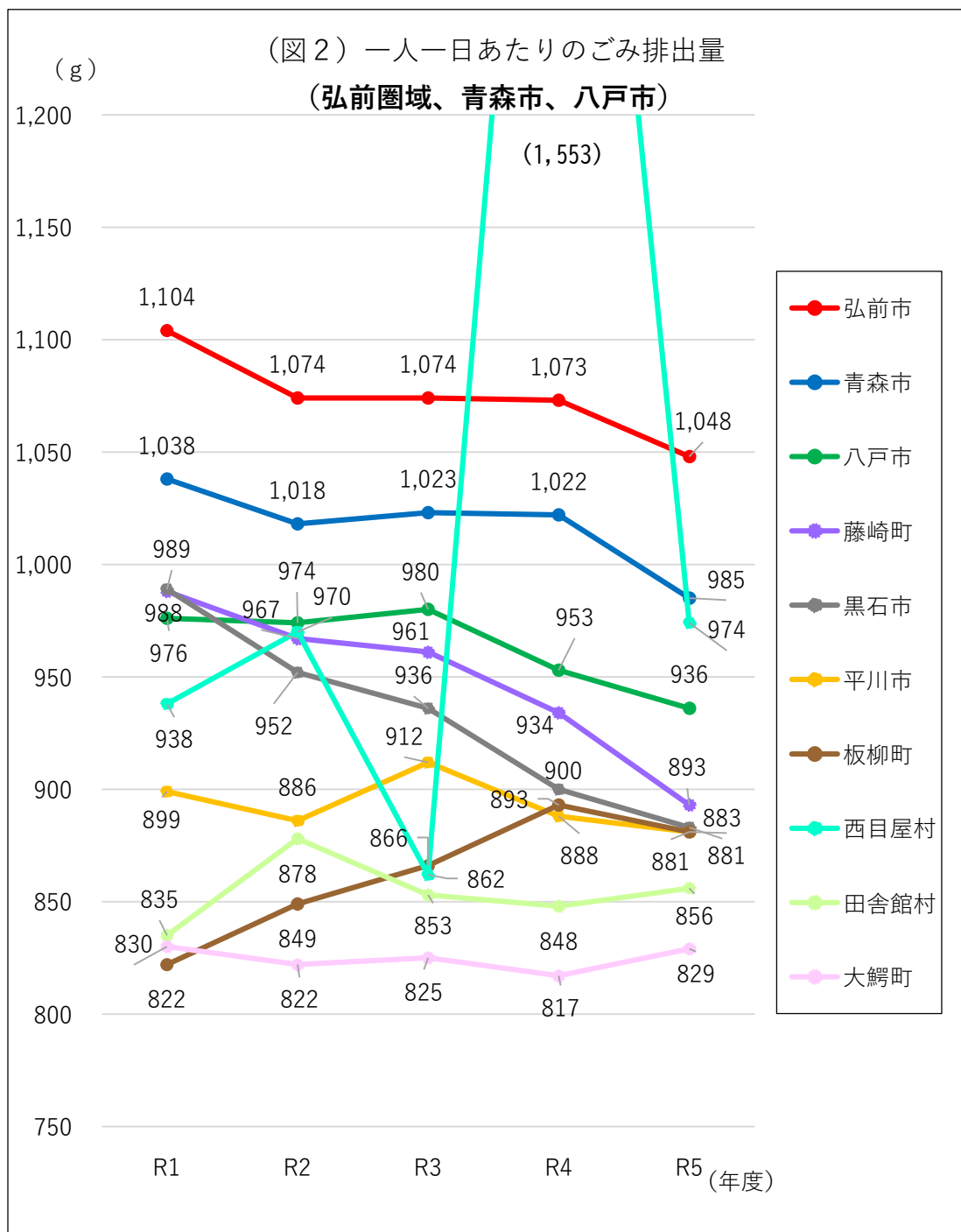
- ・令和 5 年度一般廃棄物処理事業実態調査の結果（令和 7 年 4 月環境省公表）
- ・令和 5 年度の一般廃棄物の総排出量を令和 5 年 10 月 1 日現在の人口（住民基本台帳）で除し、1 日当たりの排出量を算出したものを比較。
- ・総排出量は家庭系ごみ、事業系ごみ、集団回収の合計で、以下では集団回収を家庭系ごみに含める。
- ・端数処理のため内訳と合計が一致しない場合あり。

① 全国、県平均との比較



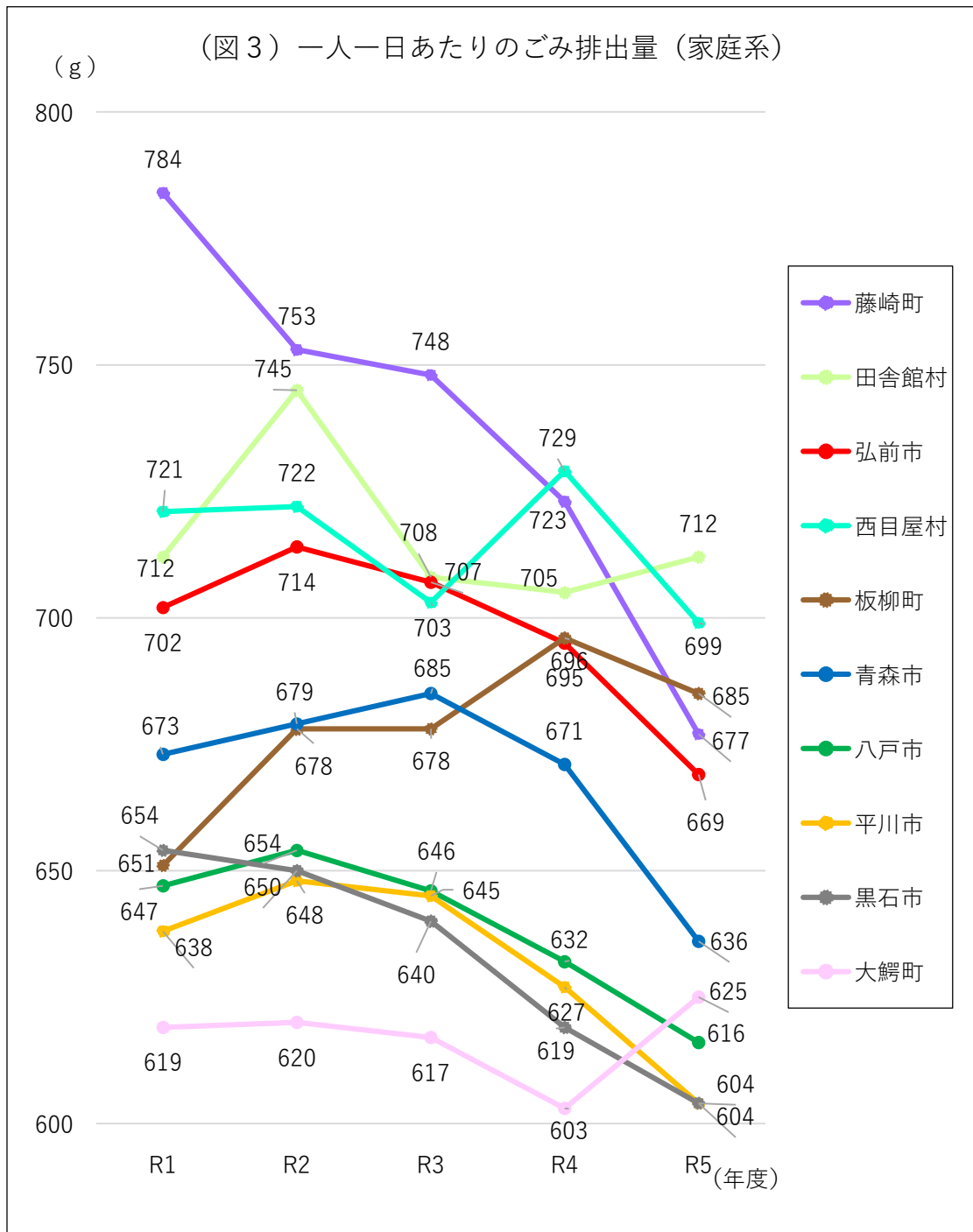
- ・ 合計は前年度から 25 g 減少。家庭系が 26 g 減少し、事業系が 1 g 増加。
- ・ 県内 40 市町村中の順位は、合計が 33 位（前年度 30 位）、家庭系が 20 位（同 18 位）、事業系が 35 位（同 35 位）。

② 弘前圏域市町村、青森市、八戸市との比較（家庭系+事業系）



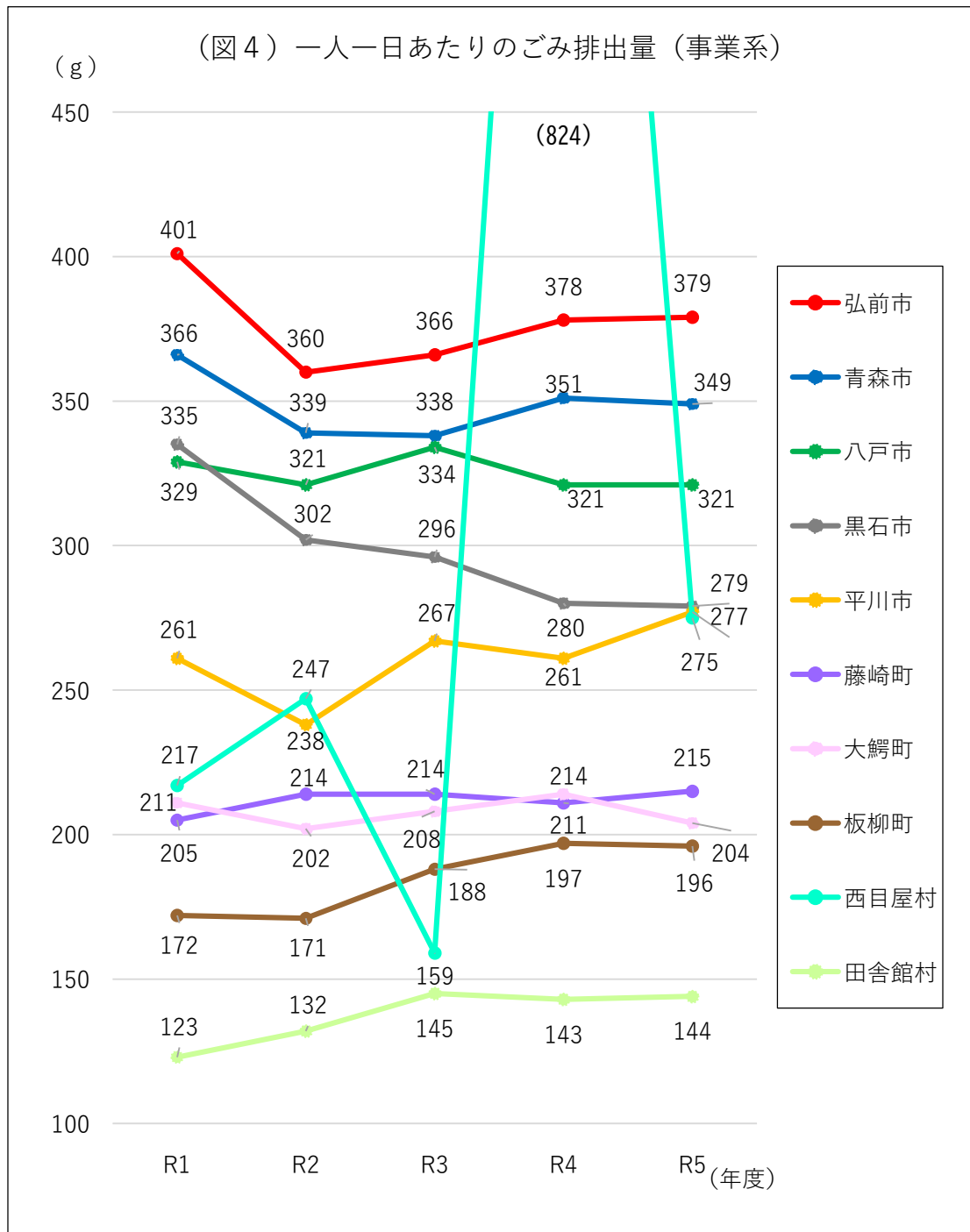
- ・ 前年度比で 2 町村が増加しているが、おおむね減少している。

③ 弘前圏域市町村、青森市、八戸市との比較（家庭系）



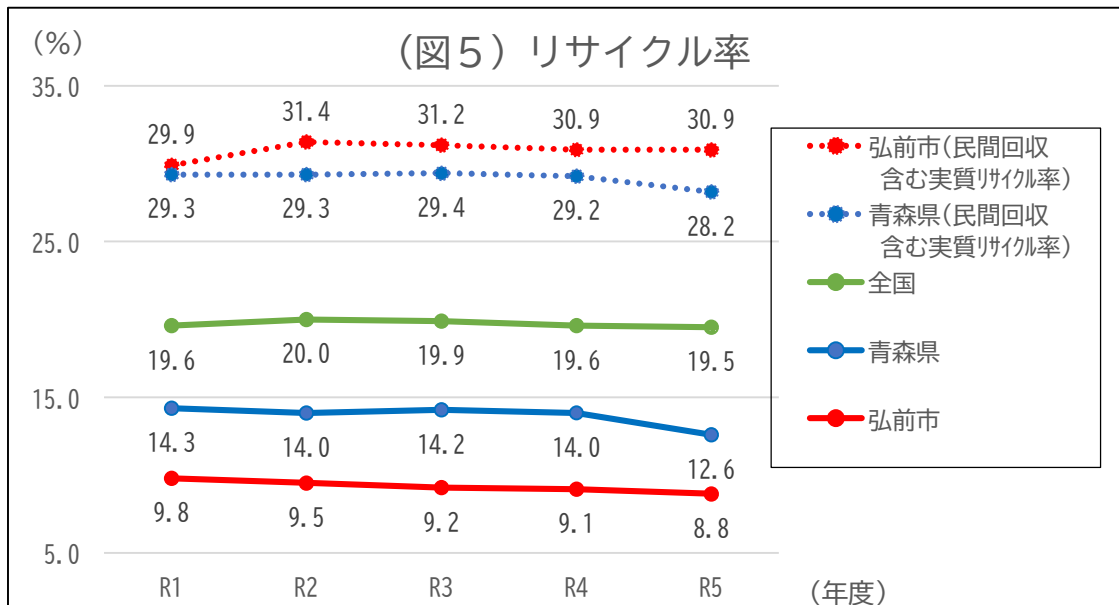
・ 前年度比で2町村が増加しているが、おおむね減少している。

④ 弘前圏域市町村、青森市、八戸市との比較（事業系）

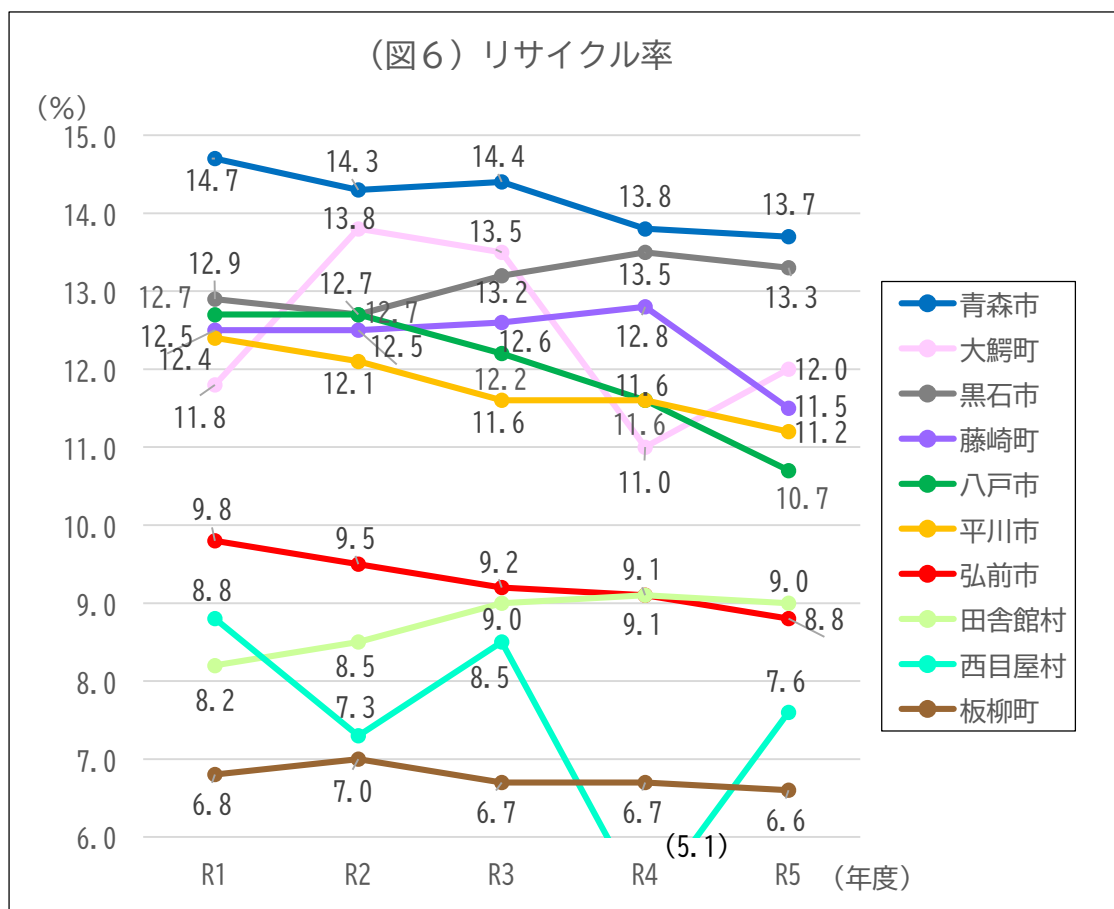


・西目屋村を除き、おおむね横ばいとなっている。

2 リサイクル率について



- ・リサイクル率は前年度比でいずれも微減。
- ・当市の民間回収を含めた実質リサイクル率は前年度から横ばい。

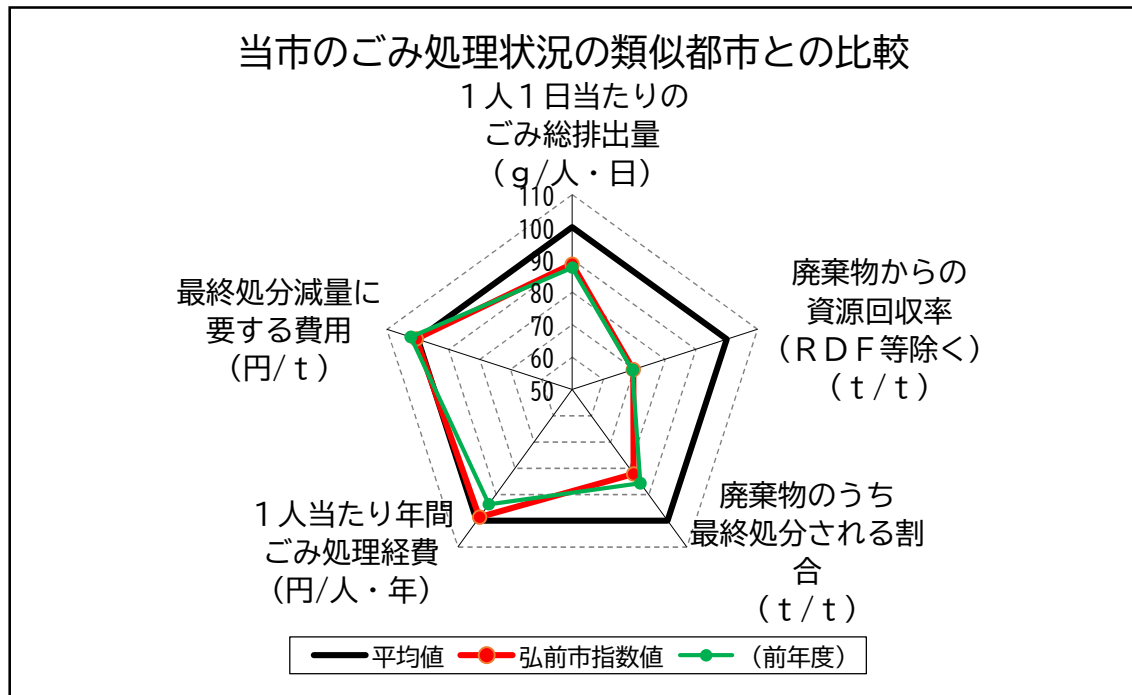


- ・当市、青森市、八戸市は前年度比でいずれも減少。
- ・弘前圏域市町村では2町村が前年度比で増加しているが、おおむね減少傾向。

3 市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツールによる比較（抜粋）

○ 当市を含む類似都市の比較

（人口 11 万人以上 22 万人未満、第 2 次・第 3 次産業人口比率が 95%未満、第 3 次産業人口比率が 55%以上）



※前年度については比較都市が同一ではないため参考値。

標準的な 指標	1 人 1 日 当たりの ごみ総排出量 (g/人・日)	廃棄物からの 資源回収率 (RDF 等除く) (t/t)	廃棄物のうち 最終処分される 割合 (t/t)	1 人当たり 年間処理経費 (円/人・年)	最終処分減量に 要する費用 (円/t)
平均	941	0.126	0.101	14,178	41,370
弘前市実績	1,048	0.088	0.119	14,373	41,177
指数値	88.6	69.8	82.2	98.6	100.5

補足指標	排出形態別単位排出量		
	1 人 1 日当たり 事業系排出量 (g/人・日)	従業者 1 人 1 日当たり 事業系排出量 (g/人・日)	1 事業所当たり 事業系排出量 (kg/事業所・日)
平均	298	631	5,828
弘前市実績	379	781	7,262
指数	72.8	76.2	75.4

補足指標	1人1日当たり家庭系ごみ種別排出量				
	可燃ごみ (g/人・日)	不燃ごみ (g/人・日)	資源ごみ (g/人・日)	その他 (g/人・日)	粗大 (g/人・日)
平均	510	32	68	2	13
弘前市実績	530	22	66	0	34
指数	96.1	131.3	102.9	200.0	△61.5

- ・グラフで示す数値は指数化したもので、平均が100（黒い線）であり、この外側に位置すると優れている状態。
- ・当市は最終処分減量に関する要する費用及び1人当たり年間処理経費は平均とほぼ同じ。
- ・「1人1日当たりごみ総排出量」が多く、「廃棄物からの資源回収率」が低く、「廃棄物のうち最終処分される割合」が高い。
- ・事業系ごみに関する指標は、いずれも平均より劣っている。
- ・「1人1日当たり家庭系ごみ種別排出量」の内訳を見ると、粗大ごみの排出量が平均の3倍近い量となっている。

4 弘前市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況

項 目 \ 年 度	H30 (基準値)	R5	R7 (目標値)	目標との 差
1人1日当たりのごみ排出量(g)	1,142	1,048	950	▲98
家庭系ごみ(g)	724	669	670	1
事業系ごみ(g)	419	379	280	▲99
リサイクル率(%)	9.5	8.8	-	-
実質リサイクル率(%)	29.5	30.9	34.0	▲3.1
1人1日当たりの最終処分量(g)	138	125	100	▲25

令和5年度実績では、基本計画に定める令和7年度の目標値との差は、1人1日当たりのごみ排出量で98g（前年度123g）、実質リサイクル率で3.1%（前年度3.1%）、1人1日当たりの最終処分量で25g（前年度29g）となっており、市民1人1日当たりのごみ排出量は、前年度1,073gから25g減少し、1,048gとなった。

内訳を見ると、家庭系ごみは前年度695gから26g減少し、669gとなっており、令和7年度を待たずに目標値に到達した。

一方の事業系ごみは、前年度378gから1g増加しており、目標値まで99gと

なっている。

目標達成に向けては、特に事業系ごみの排出抑制が求められることから、これまでに引き続き、事業者を対象に古紙を無料回収する「オフィス町内会」への加入促進を図る。

また、令和6年度から新たに開始した食品ロスマッチング支援事業（通称「タベスケ」）では登録18店舗において、合計約240キログラムの減量効果が見込まれたことから、これらの登録者及び利用者の更なる加入促進に努める。

5 参考資料

- ・別添1 一般廃棄物処理事業実態調査の結果（令和5年度）について（環境省公表から抜粋）
- ・別添2 県内市町村におけるごみ処理の状況（青森県公表から抜粋）